

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092500119		
法人名	株式会社下里福祉		
事業所名	グループホームつつじ園	【ユニット名: Aユニット】	
所在地	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町下里770番地		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から2年経過することができた。今年は看取りを家族、主治医、職員連携で終えることができ、老年期に関わるということを改めて見つめなおす機会を得ることができた。認知症という世界で過ごす中、持てる力を発揮して最後まで社会性を保とうとしていた故人を皆で振り返り、毎日、入居者のできない部分ではなく、できる部分を共に喜び尊重することで、人としての当たり前のかかわりを持つようにしている。家族とのかかわりや運営推進会議を通し、住み慣れた地域の一員であり続けるということを支援できる様目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成26年3月18日		

利用者の元気な笑顔がみられるためには、まず職員が元気で笑顔でないとの思いで、職員自らが活いきとして支援をすることを心がけている。自由で解放的な環境の中で、利用者が安心して安全に過ごせるよう、職員は心を配って見守っている。近隣の地域で生活していた利用者が多く、散歩に出て、なじみの人と会える機会を作るとともに、地域の人に気軽に訪問してもらえるホームになるよう取り組んでおり、近隣の人が地域で取れる新鮮な野菜を届けてくれることもある。利用者が最後まで尊厳を持って生きられるようターミナルケアにも取り組み、職員と家族が力を合わせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	活き活きと、その人らしく、尊厳を持って生活できているか、常に話し合っている。理解してもらいにくいこともある。	理念の実践に向けて、利用者がその人らしく尊厳を持って暮らしていけるよう、管理者は機会があるごとに職員に伝えている。理念を書いた紙を共有スペースの上部の壁に貼っている。	目に付き易い所に大きく掲げるなどして、利用者のニーズや事業所の変化に向けて、職員間の思いが一つになることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加、受診を通じて顔見知りと出会う機会を持っている。	地域に根付いている三カ所の祭で、それぞれの獅子舞がホームに寄ってくれる。地域のボランティアの訪問も多く、大正琴の演奏などが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元行事の参加、受診を通じて顔見知りと出会う機会を持つなかで、認知症を持ちながら支援を受けることで穏やかに、笑顔で過ごす様子を見てもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事実をありのまま伝える。色々なアドバイスや協力の声が聞かれる。	家族の代表、区長、行政担当者の参加で今後の取り組みについて話し合っている。不定期に開催していたが、今後は奇数月、第三水曜日に開催することを決めて定期開催できるよう計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者が直接行う。	事業所運営について福祉課に相談し、意見や助言が得られている。協力関係が築けるよう、行政とは密に連絡を取るようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の中で話し合いを持ち自分たちのケアが身体拘束に繋がっていないか振り返りを行っている。	利用者の自由を妨げないよう、屋間の玄関は施錠せず、チャイム音も鳴らさないようにして、いつでも表に出られるようにしている。職員は利用者の変化に気配りして声掛けし、安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力はもちろん、言葉や態度、入居者に心痛を感じるような話し合いを持っていない。		

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名：Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習の機会、話し合いを持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、わかりやすい説明を心掛けている。改定の際は同意書を取り、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に、意見や要望を、聞かせてもらっている。	家族とは普段から、どんなことでも納得がいくよう個々に話し合っている。家族アンケートを行い、意見 要望を広く聞けるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議やユニット会議、毎日の申し送りで、職員より意見や提案が、多く聞かれるようになり、話し合い実践している。	管理者と職員は、常日頃から何でも話し合える関係で業務にあたっている。又、今後のサービスに反映できるよう、月一回全体会議を開催して意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習の案内など皆に提示している。希望者あれば勤務調整する。全体会議で勉強会も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会が持てていない。		

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名：Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共に過ごす時間を持つことや、家族とのコミュニケーションにより、本人の思いの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然に生活に参加できるように声掛けや誘導の工夫をしている、意欲継続のため、ねぎらいの声掛けをかならず行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問しやすい雰囲気作りに努め気兼ねなく家族と会えまた、何でも相談できる関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しずつではあるが、入居者様にあった馴染みの場所へ行き、人に会い懐かしむ姿がみられる。誰もが訪問しやすいような雰囲気作りにつとめている。	近隣の散歩や、町のイベント福祉祭りなど積極的に出掛け、馴染みの人達と話す機会を作り、利用者のこれまでの関係が閉ざされないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが理解できる様、利用者の発言を他者に繰り返すなどし、コミュニケーションへの支援を行う。		

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名：Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の傾聴は、まだまだ不十分だが表情や、発言を皆で話し合い、その人の思いに沿ったケアにつながるよう努力している。	利用者の声に耳を傾けて話を聞き一人ひとりと時間を共有できるよう努めている。家族からも情報を得て利用者の今までの生活、暮らしの環境を把握し利用者本位のサービスに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴について理解することが全体的にまだまだ不十分。全体で理解できる様努力する必要がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを個人に合わせる努力を行っている。話し合いを密にすることで少しずつできてきている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や毎日の申し送りで情報の共有と必要なケアについて話し合いケアプランに反映している。	日頃の介護記録で気付いたこと、全体会議で話し合ったことを取り入れて、介護計画を作成してファイリングしているが、日頃のケアに活用できていないところもみられる。	計画内容と根拠を明確にし、日々のケアに活用しながら、現状に合わせて見なおしていけることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録技術がまだまだ未熟でありその人の暮らしがわかるような文章ができていない。S		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズの対応が思いつきの対応になる。事故や、不具合が生じないよう考慮しながら努力を行う。		

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名：Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源把握し、協働して支援につなげる努力がみつようである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所のかかりつけ医への受診、毎月の往診を受け、相談、他科受診ごの報告を、家族、かかりつけ医；職員で共有している。	協力医療機関での受診を支援している。利用者希望のかかりつけ医を受診する場合は原則家族が行うこととしている。家族で受診できない時は職員の付き添いで受診することもできる。	職員の付き添いで受診する場合は、それに伴う利用者負担費用の根拠を明文化しておくことが必要とされる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や、気づきの報告を随時貰い、現場看護師が必要な看護や受診の支援、指示を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場看護師が、家族や病棟受け持ち看護師、ドクターとコミュニケーションを図り、話し合いを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	宣告を受けた後、家族、医師、事業所で話し合いを行い方針を決める。訪問看護師も入り連携して終末ケアを実践することができた。	家族と話し合い利用者の尊厳を尊重したターミナルケアに取り組んでいる。ホームでの看取り経験があり、最後まで家族と関わりながら納得のいく結果が得られ、貴重な経験が職員の自信に繋がった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防にも協力してもらい、救命救急講習を行っている。今後は訓練回数を増やし更に実践力を身に付けていけるよう努力したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。まだまだ訓練をしていく必要がある。地域との交流を密にし、協力の理解が得られるよう努力する。	消防訓練、救急救命処置の体験学習が行われている。海岸が近い為、津波対策は5分と設定して、利用者が近くの高台に避難できる事を優先に考えている。	

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名： Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁をしても本人を傷つけないような、言葉かけや対応を心掛けている。	当事者の立場に思いを重ね、人格を尊重した接し方に努めている。排泄の失敗などは周囲の目に触れないよう配慮し、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いが表出できる。をケアプランにもあげ常時これについても話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添えるよう努力している。まだまだ不十分。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の身だしなみ支援に加え、散髪など希望にもこたえている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に応じ準備盛り付け配膳後かたづけなど、できる方と一緒にしている。	流行性風邪、ノロウイルスの影響で現在は調理室で調理されたものをホーム内で配膳している。職員と利用者が会話を楽しみながら食事ができるよう、配慮して食事を共にしている。	利用者と共に献立を決めたり、配膳下膳ができるよう取り組み、自然な形で利用者が作る喜び、手伝う喜びを感じられる支援を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや状態に応じておこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行えている。		

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名：Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンををよみ、時間で誘導を行っている。	ポータブルトイレを設置している部屋が多いが、夜間以外は使用せず、日中の時間帯は声掛けを積極に行いトイレへ誘導している。又、尿の量、色を確認するなど健康管理にも気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶が嫌いではなかなか水分摂取困難な方には、家族と話しスポーツ飲料も取り入れ補っている。天気の良い日は散歩に行きしっかり歩いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、その日の体調に合わせて援助している。	1週間に2回の入浴を基本にしている。本人の意思にまかせて毎日の入浴も可能である。入浴時間は職員と利用者がゆっくり向き合い気持ちが一つになれる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を見て声掛けの援助も行う。天気の良い日は布団を干しつつも気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師によって管理されている。しゅ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	徐々にではあるができてきている。まだまだ不十分で努力が必要。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族や地域の人と協力しながら出かけられるよう支援できていない。外に出る支援はしている。	時間、日時を決めず、天気の良い日は近くの海岸まで散歩に出掛け、地域でなじみの人たちとの会話ができる時間となっている。地域のイベント等にも出かけている。	

【事業所名】グループホームつつじ園【ユニット名：Aユニット】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回のパンの移動販売や、買い物に行く際も本人の直接支払いは、行っていない。地元祭り等の寄付を個人で渡しているかたもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出すことができた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	午前午後で換気を行い加湿器や霧吹きで湿度を保つよう努力している。家族様が花などを、持ってきて下さったり、職員が折り紙などで季節に合った物を作り、そっと飾ってかれている。	中央の玄関をはさんで各ユニットがあり、それぞれのユニットの広さや雰囲気に違いがみられる。廊下や、トイレ内に職員の業務に対する注意書きが貼られており、利用者の生活の場としての雰囲気が損なわれているところもみられる。	利用者を主体とした暮らしの場であることを十分意識し、居心地の良い共用空間を作り上げることが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースや家具に限りがある為家具の配置や声掛け、気の合う仲間同士を食事時同じテーブルに誘導する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	3年前の洪水でなじみのものを失った方もあるが居室では、落ち着いて過ごされている姿がみられる。	利用者それぞれの好みを取り入れ、畳、カーペット等を敷いたり、ソファを置くなど、落ち着いて過ごせる居心地の良い空間になるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯や布団干し入れなど転倒しやすい場所だが、見守りや声掛け少しの援助でできることを行ってもらう。		